



## 集団的自衛権発動 米軍シリア空爆

オバマ米大統領は「イスラム国」は国際社会全体の脅威だとイラクからシリアに空爆を拡大しました。8月から開始したイラク国内の「イスラム国」への爆撃はイラク政府の要請に基づいたものと主張してきましたが、今回のシリアへの拡大は国連安保理の決議もなく、当事者であるシリアの要請もあいまいなまま開始し、アメリカはこれを**集団的自衛権の行使**と主張しています。



アルカイダの流れをくむ「イスラム国」なる組織の残虐性や国際秩序を無視したその行動の危険性は言うまでもありません。しかしこうした形で国連さえ無視した軍事行動が正当化されるなら、その危険性も計り知れません。イラクやアフガンの戦争で多くの犠牲者を出し、厭戦気分の漂うアメリカ社会。いったん撤退したはずのアメリカが再びこの地域に軍事介入することにベトナム戦争やイラク戦争の二の舞になるのではという懸念も広がっています。

イスラム教スンニ派といわれるこの集団はヨーロッパ世界の各地から戦闘員を吸収して拡大を続けており、最近では東南アジアからも誘い込んでいるといわれます。この勢力への攻撃は、もともとアメリカが戦っていたはずのシリアのアサド政権を助けることにもなるという矛盾を抱えたままです。「敵の敵は味方」という構図を絵にかいたような有様です。

アメリカが現地の勢力同士を戦い合うように仕組んだ目論見が失敗し、かつて提供した武器が強大な敵を支えています。そればかりか世界中から志願してきた「イスラム国」の兵士たちが母国に帰ってテロを起こす危険が指摘され、ますます危険な社会を作りだしつつあります。

武力で平和を作るとい



イスラム国の兵士

うのは幻想であり、集団的自衛権というものの危険性がいよいよ明らかになっています。

## 沖縄県知事選に翁長氏 新基地反対で結束を

10月30日告示で戦われる沖縄知事選に那覇市長の翁長（おなが）雄志氏が出馬表明しました。

オール沖縄で新基地反対普天間基地の県外移転を進めてきたはずなのに、これを裏切って建設を進める仲井真知事に対して、辺野古への新基地建設に反対する立場で戦います。「沖縄は米軍基地を挟んで県民同士がいがみ合い、『平和だ、経済だ』という悲しい戦いを繰り広げてきた」しかし「基地返還跡地の発展こそ沖縄の進むべき道」「いまや米軍基地は経済発展の阻害要因」と明言。新基地には断固反対し、米軍占領下で、土地とりあげに県民は立場の違いを超えて結束して戦ったことを思い起こし、オール沖縄としてまとまることを訴えました。



新基地建設を止めるためにどうするのかと問われ、「まずは知事選に勝って、基地承認そのものを取り消す。そしてみんなの力で撤回に頑張る」と決意を述べました。

## こわい 女性閣僚

安倍改造内閣は閣僚や党幹部に女性を起用し、落ち始めた人気の回復を狙っています。事実この結果、内閣支持率は少し持ち直していると伝えられます。

しかし女性閣僚が増えたことに意味があるのでしょうか。それは優しさ？

任命直後から危険な安倍内閣の先頭を行く女性閣僚の姿勢が問題になっています。

高市早苗総務大臣と稲田明美自民党政調会長はナチスドイツの思想を信奉する極右団体と親しく、国会の議員会館で一緒に写真におさまるなどの親密さ。山谷えり子国家公安委員長も「在日特権を許さない市民の会」（在特会）と親密な関係であることが明らかに。在特会は朝鮮人差別などで暴力的な街頭宣伝ヘイトスピーチなどで知られる排外主義を主張する団体。ご当人は在特会とは知らなかったといいますが、これらの女性はみな自民党の右翼議員の集まりである日本会議のメンバーです。戦争への道を主導する女性議員たちは優しさどころか……。

## 福島第一原発 吉田所長の調書公開 事故の深刻さに立ち往生

政府は9月11日、東京電力福島第1原発事故に関し、政府の事故調査・検証委員会が吉田昌郎元所長（昨年7月死去）から当時の状況を聞いた「聴取結果書（吉田調書）」を公開しました。当初多くの方から要求があったにもかかわらず、政府は公開しようとしませんでした。ところが朝日新聞の誤報事件が続き、急きょ公開に転換。政府は正しい情報を伝えたいからだといいますが、朝日新聞を叩く好機だと判断したのではないかと勘繰られても仕方がないでしょう。

事実そのあとの報道やインターネットでの反応などはこの調書の中身よりも朝日新聞批判をめぐってにぎやかです。マスメディアの誤報は重大問題ですが、それ以上に福島で起こったことは何だったのか、いまだどうなっているのか、事実の検証が何より大事です。

この調書と同時に、事故発生時の菅直人首相、枝野幸男官房長官、細野豪志首相補佐官など18人の調書も本人の同意に基づき公開されました。

吉田氏は事故について報道機関にほとんど語らないまま死去しました。しかしこの調書はその生々しさを伝えていきます。「1号機の時と同じく爆発しているわけですから、注水ラインだとかいろんなラインが死んでしまっている可能性が高い。1号機、3号機の注水も止まっている。それ以外の機器も止まっている。みんな茫然としているのと、思考停止状態みたいになっているわけです」「（再開の）『ゴー』かけて、よしじゃあとという段取りにかかったぐらいで。自衛隊の方も行かれていて準備したら、すぐ『バーン』という感じだったと聞いています。最初、現場から『四十何人行方不明』という話が入ってきた。私、そのとき死のうと思いました。四十何人亡くなっているんだとすると、そこで腹切ろうと思っていました」などと語る。

事故発生直後に非常用ディーゼル電源を含む全交流電源が喪失したと報告を受けた際の現場は、「みんなが愕然（がくぜん）という感じで、声が上がらな」かった「参ってしまった」「絶望した」などと答え、原子炉の冷却について「自分で考えてもこれというのがない」とまさに絶望的になったことを告白。11年3月14日夜、2号機の原子炉への海水注入に苦心した際の状態については、「（炉心溶融が進むと）放射性物質が全部出て、まき散らしてしまうわけですから、我々のイメージは東日本壊滅ですよ」などと追い詰められた心境を語り、原発事故の深刻さを述べています。

これでも再稼働？これでも輸出？という感じですね。せっかく公表させた記録です。忘れてはならない共通の記憶としてみんなで確認しましょう。

## 原発再稼働反対に16000人 デング熱のアクシデントにめげず

9月23日脱原発1000万人アクション、さよなら原発全国集会に参加してきました。九条の会・流山からは2名、いろいろ重なったと聞きましたが、旗もない参加となりました。

全国から1万6,000人の参加、会場の代々木公園がデング熱のため、会場が亀戸公園に変更になったことが徹底しなかったのではないかと感じました。司会は女優の木内みどりさん。白いTシャツ姿でてきぱきと司会されていたのには元気をもらいました。

全国から、鹿児島川内原発の旗を始め、静岡の浜岡原発の旗、北海道の旗、

住む地域に原発を抱えておられる方々の切羽詰った切実な参加が目立ちました。それらに比べ東京近郊の参加の旗、特に九条の会の旗が見当たらず残念に思いました。そして憲法を守ること、切羽詰った原発問題への戦いとをどう繋げていくのが課題でもあると感じました。

アトラクションの後、1時から大江さんのあいさつが始まり、原発は荒廃と犠牲をもたらす。首相が原発を動かそうとする以上、私たち国民は断乎として進まねばならない、と話されました。

澤地さんから、今朝のある新聞に今日の集会は中止になったと出しているところもあったと話され、私は意図的ではないかと感じました。

澤地さんは、安倍さんに原発をやめるといわせたい、声を上げる以外に道はない、一緒に生き生きと闘おうと、83歳の身で参加されました。

私たちは11時に会場につき2時半からデモに参加し、家に着く6時半まで、7.5時間。再稼働反対の熱意に浸った一日に満足でした。（広瀬）



毎日新聞より

## 10月の定例駅宣

10月9日（木）は「おたかの森駅」  
15:30～16:30です

集团的自衛権容認という憲法無視、武器輸出や原発再稼働など、国民の間に不安が広がっていることを駅頭でも少しづつ感じます。ぜひご参加を。

\*\*\*\*\*

カンパはこちらの郵便振替口座へ  
00130-5-464735 口座名 九条の会流山